

太田商工会議所管内景況調査報告書

(第87回)

平成30年 7月～9月期 実績

平成30年10月～12月期 見通し

太田商工会議所

〒373-8521 群馬県太田市浜町3-6

TEL 0276(45)2121

FAX 0276(45)1088

URL <http://www.otacci.or.jp>

E-Mail info@staff.otacci.or.jp

太田商工会議所 景況調査 目次

調査要項・・・・・・・・・・・・・・・・	1
調査目的や対象企業（業種）、回答率など	
設問に対する業種別回答・・・・・・・・	2
9つの質問に対する業種別による回答状況	
業種別D I 値について・・・・・・・・	5
6つの業種ごとのD I 値及び回答企業からのコメント	
全体D I 値について・・・・・・・・	9
全ての業種を併せたD I 値と1年間の推移	
比較資料編・・・・・・・・・・・・・・・・	10
同様の景況調査を行っている機関とのデータ比較 （中小企業基盤整備機構、日本商工会議所LOBO調査、日銀短観）	

第82回・平成29年4～6月調査からは、依頼企業数を150社から270社へ増やすとともに、対象業種を6つに絞った（従来は10業種）。

これは、各地域・機関で行っている同様の調査結果と比較できるように工夫したもので、巻末に比較資料編を付けてある。

【調査要項】

1. 目的

管内経済動向を把握し、併せて経営者への情報提供とするとともに、今後の経営指導の資料とする。

2. 調査時点及び対象期間

- ① 調査時点 平成30年9月
- ② 調査対象期間 今期（平成30年7月～9月期）に対する前期（平成30年4月～6月期）及び前年同期（平成29年7月～9月期）との比較実績、並びに今後3ヶ月間の業況見通しについて調査。

3. 調査対象

当所会員事業所の業種を5つ（製造業、建設業、卸売業、小売業、サービス業）に分類し、製造業に関しては、更に「輸送機器」と「その他製造業」に分けた。

調査対象先の企業数については、太田商工会議所会員事業所の業種割合にて案分し、下記の通り調査を実施した。

4. 回答状況

	依頼数	回答数	回答率
全 体	270	→ 211	(78.15%)
輸送機器	40	→ 35	(87.5%)
その他製造	40	→ 35	(87.5%)
建設業	50	→ 36	(72.0%)
卸売業	30	→ 24	(80.0%)
小売業	40	→ 32	(80.0%)
サービス業	70	→ 49	(70.0%)

5. D I 値について

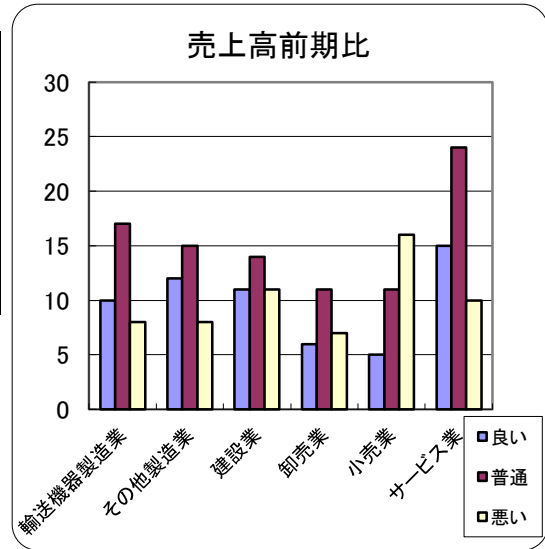
D I とは、ディフュージョン・インデックス (Diffusion Index) の略で、良い（増加）と答えた企業の割合から、悪い（減少）と答えた企業の割合を引いたもので、企業経営者の景況判断をみる指標である。

(例：ある設問において、「良い」と答えた企業…10% 「悪い」と答えた企業…25%の場合、D I 値は▲15.0となる。)

(1)設問に対する業種別回答

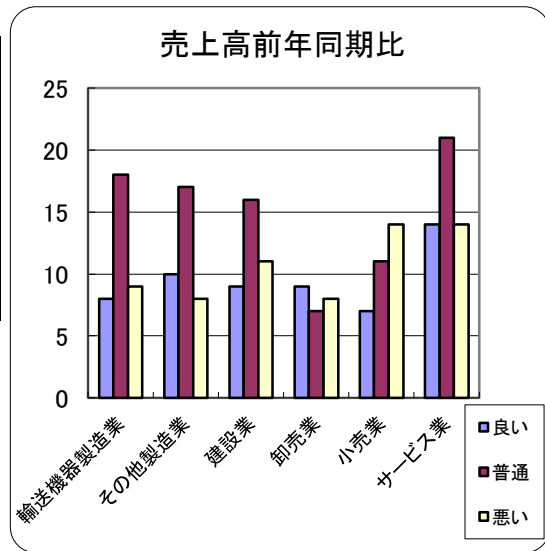
売上高前期比

	良い	普通	悪い	合計	DI値
輸送機器製造業	10	17	8	35	5.7
その他製造業	12	15	8	35	11.4
建設業	11	14	11	36	0.0
卸売業	6	11	7	24	▲ 4.2
小売業	5	11	16	32	▲ 34.4
サービス業	15	24	10	49	10.2
合計	59	92	60	211	▲ 0.5



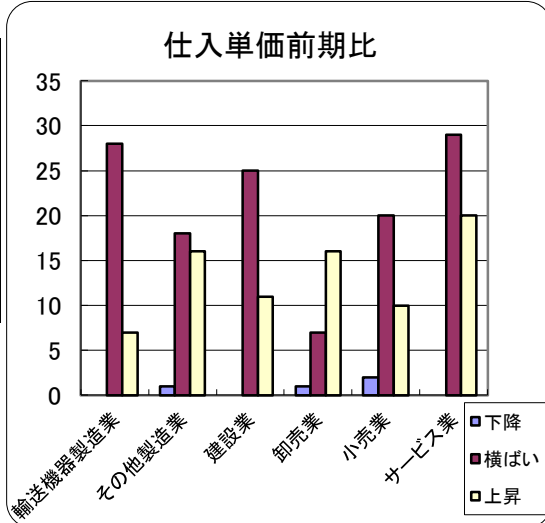
売上高前年同期比

	良い	普通	悪い	合計	DI値
輸送機器製造業	8	18	9	35	▲ 2.9
その他製造業	10	17	8	35	5.7
建設業	9	16	11	36	▲ 5.6
卸売業	9	7	8	24	4.2
小売業	7	11	14	32	▲ 21.9
サービス業	14	21	14	49	0.0
合計	57	90	64	211	▲ 3.3



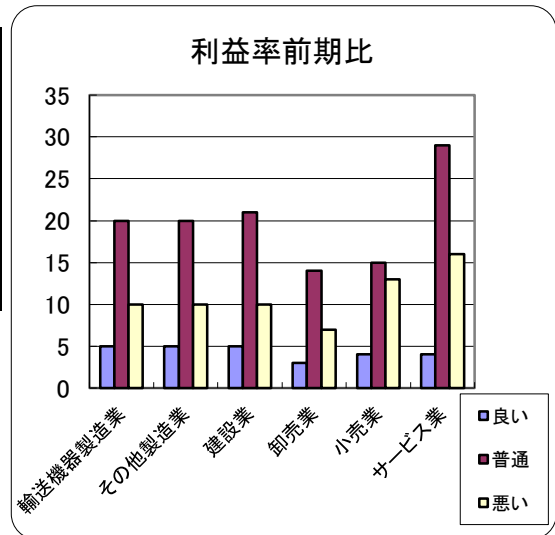
仕入単価前期比

	下降	横ばい	上昇	合計	DI値
輸送機器製造業	0	28	7	35	▲ 20.0
その他製造業	1	18	16	35	▲ 42.9
建設業	0	25	11	36	▲ 30.6
卸売業	1	7	16	24	▲ 62.5
小売業	2	20	10	32	▲ 25.0
サービス業	0	29	20	49	▲ 40.8
合計	4	127	80	211	▲ 36.0



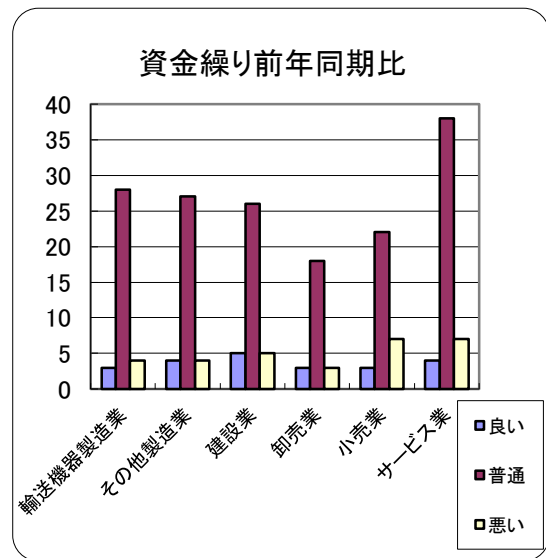
利益率前期比

	良い	普通	悪い	合計	DI値
輸送機器製造業	5	20	10	35	▲ 14.3
その他製造業	5	20	10	35	▲ 14.3
建設業	5	21	10	36	▲ 13.9
卸売業	3	14	7	24	▲ 16.7
小売業	4	15	13	32	▲ 28.1
サービス業	4	29	16	49	▲ 24.5
合計	26	119	66	211	▲ 19.0



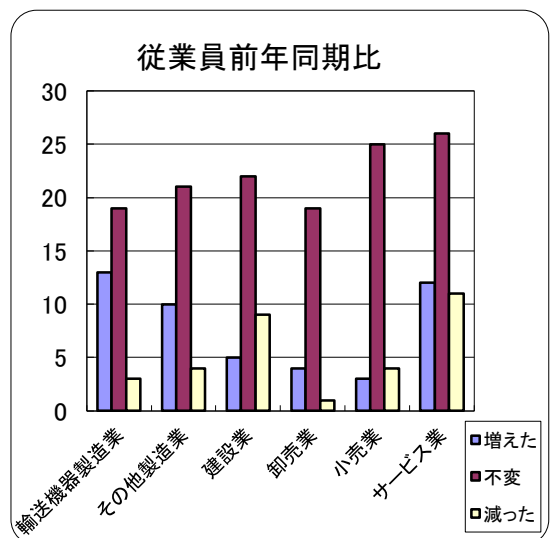
資金繰り前年同期比

	良い	普通	悪い	合計	DI値
輸送機器製造業	3	28	4	35	▲ 2.9
その他製造業	4	27	4	35	0.0
建設業	5	26	5	36	0.0
卸売業	3	18	3	24	0.0
小売業	3	22	7	32	▲ 12.5
サービス業	4	38	7	49	▲ 6.1
合計	22	159	30	211	▲ 3.8



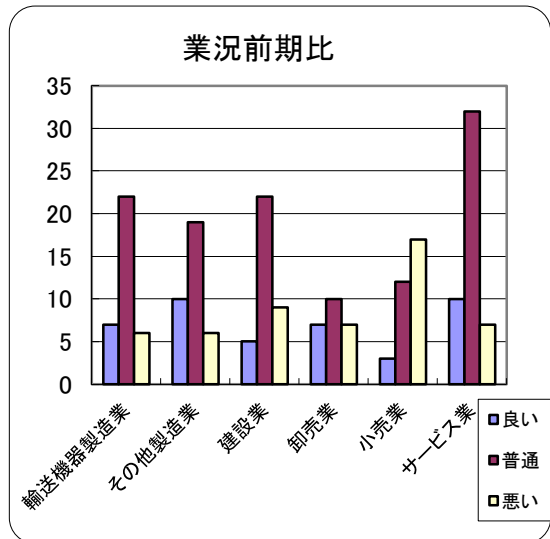
従業員前年同期比

	増えた	不変	減った	合計	DI値
輸送機器製造業	13	19	3	35	28.6
その他製造業	10	21	4	35	17.1
建設業	5	22	9	36	▲ 11.1
卸売業	4	19	1	24	12.5
小売業	3	25	4	32	▲ 3.1
サービス業	12	26	11	49	2.0
合計	47	132	32	211	7.1



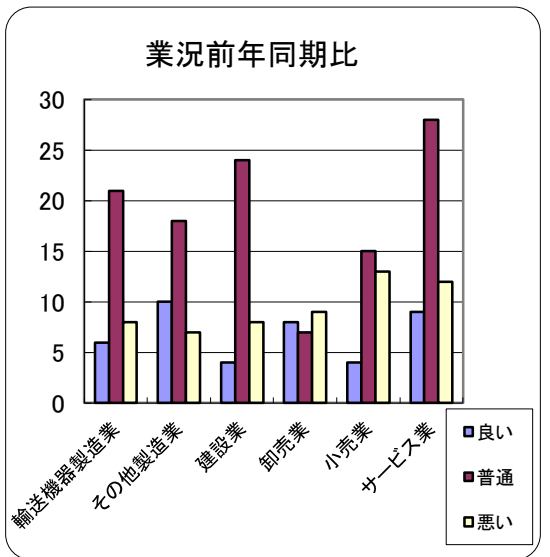
業況前期比

	良い	普通	悪い	合計	DI値
輸送機器製造業	7	22	6	35	2.9
その他製造業	10	19	6	35	11.4
建設業	5	22	9	36	▲ 11.1
卸売業	7	10	7	24	0.0
小売業	3	12	17	32	▲ 43.8
サービス業	10	32	7	49	6.1
合計	42	117	52	211	▲ 4.7



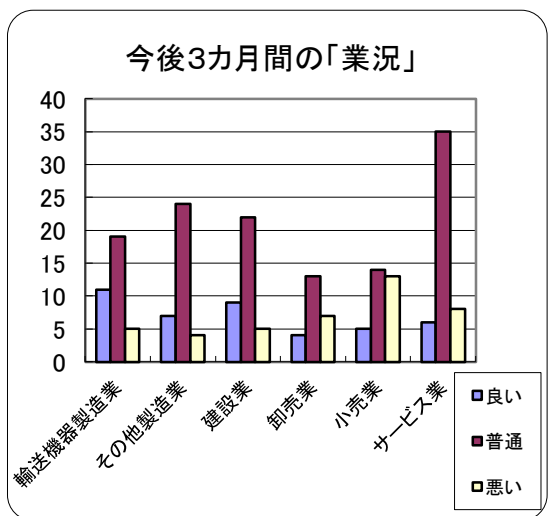
業況前年同期比

	良い	普通	悪い	合計	DI値
輸送機器製造業	6	21	8	35	▲ 5.7
その他製造業	10	18	7	35	8.6
建設業	4	24	8	36	▲ 11.1
卸売業	8	7	9	24	▲ 4.2
小売業	4	15	13	32	▲ 28.1
サービス業	9	28	12	49	▲ 6.1
合計	41	113	57	211	▲ 7.6



今後3ヶ月間の「業況」見通し

	良い	普通	悪い	合計	DI値
輸送機器製造業	11	19	5	35	17.1
その他製造業	7	24	4	35	8.6
建設業	9	22	5	36	11.1
卸売業	4	13	7	24	▲ 12.5
小売業	5	14	13	32	▲ 25.0
サービス業	6	35	8	49	▲ 4.1
合計	42	127	42	211	0.0



(2) 業種別DI値について

≪小売業を除く全ての業種で売上高・業況がゆるやかに回復。依然として材料費や原油価格の高値推移による仕入単価の上昇や人手不足傾向は変わらない状況が続く≫

輸送機器	前期(4~6月期)	今期(7~9月期)	比較増減
売上高前期比	▲ 3.1	5.7	8.8
売上高前年同期比	▲ 6.3	▲ 2.9	3.4
仕入単価前期比	▲ 28.1	▲ 20.0	8.1
利益率前期比	▲ 18.8	▲ 14.3	4.5
資金繰り前年同期比	▲ 12.5	▲ 2.9	9.6
従業員前年同期比	34.4	28.6	▲ 5.8
業況前期比	▲ 6.3	2.9	9.2
業況前年同期比	▲ 6.3	▲ 5.7	0.6
今後3ヶ月間の業況見通し	0.0	17.1	17.1

[企業コメントより]

- ・メーカーに依り正式出図とGOが遅れている。(治具設計・製作)
- ・人手不足と設備納期が長く、需要に応えられない。(部品製造)
- ・今期のスタートが良かったのは取引先を変更したこと。仕入れ単価が悪いのはすべて有償支給になったこと。今後三ヶ月が悪いにしたのは取引始めの打合せ以降、先方の在庫調整に対応しなければならぬこと等です。(塗装業)
- ・現状は良いが、長期的には不安がある。(金型設計・製作)
- ・大きく変化はなく、前年と比べて同水準で推移しています。(部品製造)
- ・①新しいお客様の増加。②新設備に依り、生産性のアップ(金属加工業)
- ・新型フォレスター受注。(内装部品製造)
- ・派遣社員の確保が難しい。このため単価が上昇。(部品製造)

その他製造業	前期(4~6月期)	今期(7~9月期)	比較増減
売上高前期比	8.3	11.4	3.1
売上高前年同期比	19.4	5.7	▲ 13.7
仕入単価前期比	▲ 50.0	▲ 42.9	7.1
利益率前期比	▲ 5.6	▲ 14.3	▲ 8.7
資金繰り前年同期比	2.8	0.0	▲ 2.8
従業員前年同期比	25.0	17.1	▲ 7.9
業況前期比	2.8	11.4	8.6
業況前年同期比	8.3	8.6	0.3
今後3ヶ月間の業況見通し	8.3	8.6	0.3

[企業コメントより]

- ・前年に比べて運送賃が上がっている。路線便各社約10%アップ。(資材加工)
- ・来期の出足は遅れるが、すぐに取り戻せると思います。新製品の発売が10月にあります。(電気部品製造)
- ・人材確保が困難。(板金加工業)
- ・米国向けを中心に受注が急伸しているため。(産業用機械製造)
- ・食品業界ではデフレが継続的に維持されている。また、働き方改革で残業が法定以上にできなくなり、これ以上の受注も不可となっている。仕入コストも上昇し、企業としては正念場である。(食品製造業)
- ・人手不足が要因のひとつです。(梱包材製造業)

建設業	前期(4~6月期)	今期(7~9月期)	比較増減
売上高前期比	▲ 11.4	0.0	11.4
売上高前年同期比	▲ 5.7	▲ 5.6	0.1
仕入単価前期比	▲ 42.9	▲ 30.6	12.3
利益率前期比	▲ 17.1	▲ 13.9	3.2
資金繰り前年同期比	▲ 5.7	0.0	5.7
従業員前年同期比	0.0	▲ 11.1	▲ 11.1
業況前期比	▲ 17.1	▲ 11.1	6.0
業況前年同期比	▲ 20.0	▲ 11.1	8.9
今後3ヶ月間の業況見通し	▲ 5.7	11.1	16.8

[企業コメントより]

・働き方改革、生産性向上、完全週休二日、体を休める事は大事なことである。しかし、額に汗して働くことの意義を今一度、認識することが大事であると思う。例えば建設業界を例にとると「賃金を減らし、休みを増す」これで入職者が増えると思ったら大間違い。「仕事」これをもっと道徳的に思考することが大事であると考え。 (総合建設業)

・売価ダウン、市場の縮小による。(住宅設備関連業)

・従業員が減った為、売上高が減少した。チームワークをよくして外注を確保して売上を上げていきたいと思ひます。また従業員を増員して会社力を上げていきたい。(造園業)

・新規物件の完成迄、10月~12月期間が従業員の採用がままならない為、業況見通しがしっかりと立っていない。(設備工事業)

・民需の伸びは漸増、公共事業は発注が順調。おしなべて全体は良好に向かっている。(総合建設業)

卸売業	前期(4~6月期)	今期(7~9月期)	比較増減
売上高前期比	▲ 12.5	▲ 4.2	8.3
売上高前年同期比	▲ 4.2	4.2	8.4
仕入単価前期比	▲ 62.5	▲ 62.5	0.0
利益率前期比	4.2	▲ 16.7	▲ 20.9
資金繰り前年同期比	4.2	0.0	▲ 4.2
従業員前年同期比	20.8	12.5	▲ 8.3
業況前期比	▲ 16.7	0.0	16.7
業況前年同期比	▲ 8.3	▲ 4.2	4.1
今後3ヶ月間の業況見通し	▲ 20.8	▲ 12.5	8.3

[企業コメントより]

・全体的におとなしく推移。当月は過去20年で最悪の売上!!得意先の採用メーカーの切替により、大幅な受注減あり。取り戻しに努めているが、設計思考、価格の問題もありメーカー協力がなければ難しい(メーカーは消極的)。メーカー各社の価格改正(値上げ)の対応に追われている。(建材卸売業)

・介護保険、国の抑制策がH30.10.1より実施になり、厳しい状況が続くと思われる。(医療機器卸売業)

・新規事業の売上増。

・10月以降新たに事業加盟のため、人件費等増加。(飲料品卸売業)

・H29年6月期に納入価格等の見直しを行い、昨年対比等々の動向から厳しい状況が続く。同7月~9月(現在)も消費等の冷え込みからか販売層のトレンドに変化が見られる。

7月からの多くの災害により物流不備等が消費等にも少なからず影響が見られ、現在も一部(食料等の)供給が不安視される。(酒類卸売業)

・仕入単価が上昇している影響が今後でてくると思われるので対策が必要。(金属製品卸売)

・4-6月の売上増は、厨房機器部門の新規取引開始の為。本業である自動車補修用品の卸部門は低迷している。仕入単価に関しては、輸入商品の仕入先の定期価格改定によるものですが、昨年10月の単価改定後、販売単価改定を行った為、影響は小さい。本年10月仕入分より仕入単価改定に関しては、販売単価改定が現状市況を考えると難しい為、下期利益率の低下が懸念される。(自動車補修品卸売業)

小売業	前期(4~6月期)	今期(7~9月期)	比較増減
売上高前期比	▲ 3.3	▲ 34.4	▲ 31.1
売上高前年同期比	▲ 23.3	▲ 21.9	1.4
仕入単価前期比	▲ 40.0	▲ 25.0	15.0
利益率前期比	▲ 16.7	▲ 28.1	▲ 11.4
資金繰り前年同期比	▲ 20.0	▲ 12.5	7.5
従業員前年同期比	▲ 3.3	▲ 3.1	0.2
業況前期比	▲ 26.7	▲ 43.8	▲ 17.1
業況前年同期比	▲ 33.3	▲ 28.1	5.2
今後3ヶ月間の業況見通し	▲ 23.3	▲ 25.0	▲ 1.7

[企業コメントより]

- ・生活費にはお金が多くなるので、食品に(かかる)お金を少なくしていると思う。(食料品販売業)
- ・今年の夏は猛暑の影響で、去年の夏に比べて売上は減少しました。しかし、固定客(リピーター)のお客様がついてきているので、来店されたお客様には新製品等も作りながらアピールし、他店に負けないような店づくりをしていきたいと思えます。(菓子販売)
- ・猛暑で客足が減、顧客の出費も減少。(加工食品販売業)
- ・商店街が商店街としての体を成していません。これでは名ばかりです。どこの商店街も同じことが言えるのではと…。売れない理由は、各店主の方々はもう理解されているのであえて申しませんが、消費のキャパが高度経済成長期のようなサイズではなく、アップアップしている状況下でもっと大量生産・大量消費なんてありえませんか。これから商業者は、一抜け、二抜けと廃業が進んでいくものと思っています。残念ながら南一番商店街は、当の昔にわかっておりましたが商業立地ではなくなります。(贈答品販売業)
- ・悪天候がひびきました。努力しても客足が減少しました。(化粧品等販売業)
- ・気温(暑さ)の影響か、卸しが減少した。(食料品販売業)
- ・猛暑日が多かったので売上は増えました。メーカー欠品があり仕入に苦慮しました。今後も天気次第です。(酒類販売業)
- ・葬儀の卸をしておりますが、毎年供え物があがらなくなり売上が落ちていきます。このままではいつ閉店するか考えております。(仏具販売業)
- ・緊急で重要な問題解決にスピードがついていかない。計画を立て手段はできても実現させる人材が不足。何をどうするにも、リクルート、育成が最大の課題。自分の負担が増えるばかりで、本当に悩ましい限りです。(化粧品等販売業)
- ・実店舗売上は上向きにあるものの、ネット売り上げが度重なる災害の影響でやや下降ぎみ。(日用雑貨販売業)

サービス業	前期(4~6月期)	今期(7~9月期)	比較増減
売上高前期比	3.8	10.2	6.4
売上高前年同期比	▲ 7.7	0.0	7.7
仕入単価前期比	▲ 44.2	▲ 40.8	3.4
利益率前期比	▲ 21.2	▲ 24.5	▲ 3.3
資金繰り前年同期比	▲ 9.6	▲ 6.1	3.5
従業員前年同期比	5.8	2.0	▲ 3.8
業況前期比	▲ 11.5	6.1	17.6
業況前年同期比	▲ 17.3	▲ 6.1	11.2
今後3ヶ月間の業況見通し	▲ 9.6	▲ 4.1	5.5

[企業コメントより]

- ・従業員の産休に備え、有期で1名採用した。(放送サービス)
- ・SUBARUの色々な問題で、盛り上がりのなさを感じる。(運送業)
- ・燃料費の高騰により資金繰りが困難になっています。一大事です!(運送業)
- ・政府で進めている働き方改革は、上場企業と中小企業と同条件で進めていくことに無理があると思います。商工会議所は本来、地方の中小企業の視点で国に対し抵抗してほしいと思います。雇用環境がここ数年で大きく変わり、私たち企業間でも働き方改革についての議論が必要かと感じます。(飲食業)

<サービス業コメント続き>

- 仕入単価は年々上昇しています。特にチーズ類、エビ・イカ類は値上がりし大変です。(飲食業)
- 仕入れの見直しを行った。従来の取引先の中で他社が有効な場合は順次切り替えた結果、仕入価格の低減に役立った。また逆に高品質な食材を仕入れることで商品力=美味しさの向上が実現できた。その食材については原価は上昇した。
- 来年の消費増税むけメニューを改定する。ランチメニューはほぼ完成。グランドメニューに着手する。
- 山の日が昨年できたおかげでお盆休みが長くなった印象。売上には好材料。逆にスタッフの手配には大変苦労した。人手不足感は続いている。
- 人件費も8月より上げた。時給+50円。人件費増は大変悩ましい。より効率よく販売する店づくりを強化しなくてはと思う。
- マーケティングについての講座があれば受けたいです。(飲食業)

- 配達先が遠くなり、小口になりつつある。効率が悪くなり利益を少なくしている。それを受けないと売上高を前年同様に保てない。(飲食業)
- パーティー、ケータリングの縮小化が実感として見受けられます。お客様、新規様を増やすしかないと考えます。(飲食等サービス業)
- 全体的に特に大きな変化は無いです。飲食業と比べれば良い方みたいです。(理美容業)
- 売上高は前期比「減少」に関しては稼働日数が少なかったため。(産廃処理業)
- 求人を出しても全く来ない。問合せさえもなし。新たな事業を進めようとしても、人材が確保できなければ前に進む事が出来ない。
逆に事業事態も根本的に考え直さなければならない事になるかもしれない。これは弊社だけの問題ではなく、零細企業の叫びとも言える事。人件費を上げれば来る確率は高くなるが、自分の首を自分で絞める事になってしまうだろう。(産廃処理業)
- 今は良いが人手不足の為、次の一手が打てていないのが心配です。(建物サービス業)
- 猛暑により、売上高は上昇したが、仕入れ値も上昇した。トランプ大統領によるイランたたきの為、先行きは不透明。原油は上昇する予感。(ガソリンスタンド)
- 8月度の売上がとても良かったので”良い”に○を付けました。このまま増加してほしいが、近隣に飲食店が増えたので、うまく共存していきたい。
ただし、電気・ガス料金がまた値上がりしてしまった。何か対策があればご教授下さい。(飲食業)

(3) 全体DI値について

全 体 D I 値	前期(4~6月期)	今期(7~9月期)	比較増減
売上高前期比	▲ 1.9	▲ 0.5	1.4
売上高前年同期比	▲ 4.3	▲ 3.3	1.0
仕入単価前期比	▲ 44.0	▲ 36.0	8.0
利益率前期比	▲ 13.9	▲ 19.0	▲ 5.1
資金繰り前年同期比	▲ 7.2	▲ 3.8	3.4
従業員前年同期比	12.9	7.1	▲ 5.8
業況前期比	▲ 12.0	▲ 4.7	7.3
業況前年同期比	▲ 12.9	▲ 7.6	5.3
今後3ヶ月間の業況見通し	▲ 7.7	0.0	7.7

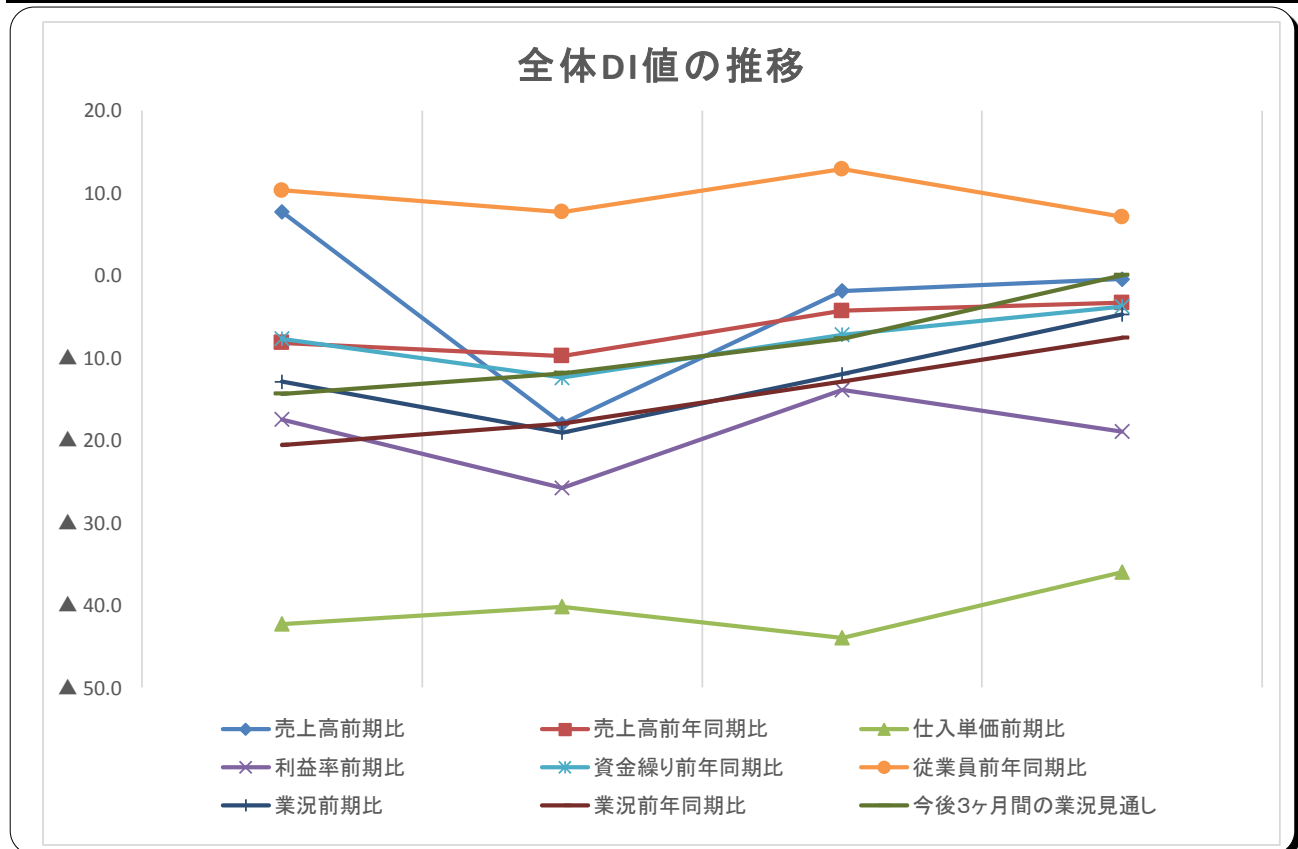
【 動 向 】

今回の調査では、前回調査で回復傾向を示した小売業で大きく悪化したが、それ以外の業種では売上高や業況が緩やかながら回復傾向を示した。

仕入単価及び従業員は、数値上適正值に近づいているが、依然として高い水準(仕入単価高騰、人材不足)が続いており、その結果、利益率悪化につながったと思われる。

今後3カ月間の業況見通しは、製造業・建設業を中心に明るい見通しが伺え、全国的な調査と比較しても良い数値が並んだ結果となった。

全 体 D I 値 の 推 移	2017.10-12期	2018.1-3期	2018.4-6期	2018.7-9期
売上高前期比	7.7	▲ 18.0	▲ 1.9	▲ 0.5
売上高前年同期比	▲ 8.2	▲ 9.8	▲ 4.3	▲ 3.3
仕入単価前期比	▲ 42.3	▲ 40.2	▲ 44.0	▲ 36.0
利益率前期比	▲ 17.5	▲ 25.8	▲ 13.9	▲ 19.0
資金繰り前年同期比	▲ 7.7	▲ 12.4	▲ 7.2	▲ 3.8
従業員前年同期比	10.3	7.7	12.9	7.1
業況前期比	▲ 12.9	▲ 19.1	▲ 12.0	▲ 4.7
業況前年同期比	▲ 20.6	▲ 18.0	▲ 12.9	▲ 7.6
今後3ヶ月間の業況見通し	▲ 14.4	▲ 11.9	▲ 7.7	0.0



(4)比較資料編

当所調査のDI値をもとに、同様の景況調査を行っている機関とのデータ比較を行った。

(なお、日本商工会議所のLOBO調査については毎月調査となっているため、4～6月の平均値でDI値を算出)

①売上高前期比DI (「増加」と答えた割合－「減少」と答えた割合)

	当所景況調査	中小企業基盤整備機構	日商LOBO	日銀短観(中小企業)
製造業	8.6	▲ 11.1	－	－
建設業	0.0	▲ 9.4	－	－
卸売業	▲ 4.2	▲ 9.2	－	－
小売業	▲ 34.4	▲ 23.6	－	－
サービス業	10.2	▲ 14.0	－	－
全体	▲ 0.5	▲ 14.8	－	－

②売上高前年同期比DI (「増加」と答えた割合－「減少」と答えた割合)

	当所景況調査	中小企業基盤整備機構	日商LOBO	日銀短観(中小企業)
製造業	1.4	－	▲ 2.5	1.6
建設業	▲ 5.6	－	▲ 9.0	
卸売業	4.2	－	▲ 8.8	0.4
小売業	▲ 21.9	－	▲ 26.0	
サービス業	0.0	－	▲ 8.8	
全体	▲ 3.3	－	▲ 10.9	0.7

(↑非製造業という括り)

③仕入単価前期比DI (「下降」と答えた割合－「増加」と答えた割合)

	当所景況調査	中小企業基盤整備機構	日商LOBO	日銀短観(中小企業)
製造業	▲ 31.4	－	▲ 49.1	－
建設業	▲ 30.6	－	▲ 42.5	－
卸売業	▲ 62.5	－	▲ 42.7	－
小売業	▲ 25.0	－	▲ 36.8	－
サービス業	▲ 40.8	－	▲ 41.4	－
全体	▲ 36.0	－	▲ 42.7	－

(仕入単価・前年同期比)

④利益率前期比DI (「好転」と答えた割合－「悪化」と答えた割合)

	当所景況調査	中小企業基盤整備機構	日商LOBO	日銀短観(中小企業)
製造業	▲ 14.3	▲ 17.1	▲ 12.2	0.9
建設業	▲ 13.9	▲ 15.1	▲ 14.7	
卸売業	▲ 16.7	▲ 19.2	▲ 12.1	
小売業	▲ 28.1	▲ 31.2	▲ 24.7	▲ 5.0
サービス業	▲ 24.5	▲ 20.9	▲ 16.0	
全体	▲ 19.0	▲ 21.6	▲ 16.2	▲ 3.3

(採算・前年同期比) (採算・前年同期比) (経常利益・前年同期比)

⑤資金繰り前年同期比DI (「好転」と答えた割合－「悪化」と答えた割合)

	当所景況調査	中小企業基盤整備機構	日商LOBO	日銀短観(全規模)
製造業	▲ 1.4	▲ 9.2	▲ 8.2	18.0
建設業	0.0	▲ 3.7	▲ 5.5	
卸売業	0.0	▲ 6.7	▲ 6.4	
小売業	▲ 12.5	▲ 20.2	▲ 16.9	17.0
サービス業	▲ 6.1	▲ 12.1	▲ 9.1	
全体	▲ 3.8	▲ 11.9	▲ 9.6	19.0

(前期比)

(直近比)

⑥従業員前年同期比DI（「増加」と答えた割合－「減少」と答えた割合）

	当所景況調査	中小企業基盤整備機構	日商LOBO	日銀短観(中小企業)
製造業	22.9	▲ 1.8	－	－
建設業	▲ 11.1	▲ 2.9	－	－
卸売業	12.5	▲ 0.3	－	－
小売業	▲ 3.1	▲ 6.3	－	－
サービス業	2.0	▲ 5.3	－	－
全体	7.1	▲ 4.0	－	－

⑦業況前期比DI（「好転」と答えた割合－「悪化」と答えた割合）

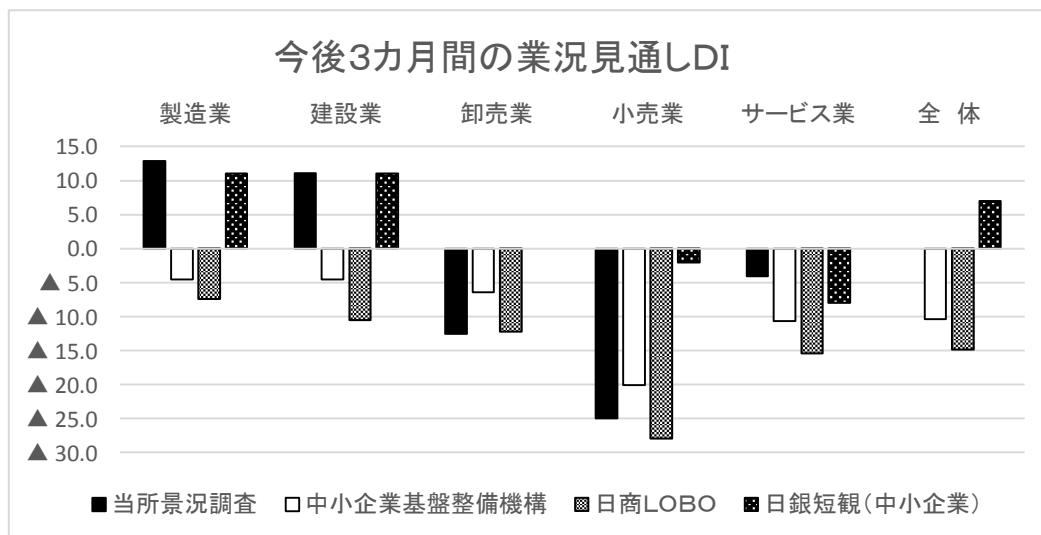
	当所景況調査	中小企業基盤整備機構	日商LOBO	日銀短観(中小企業)
製造業	7.1	▲ 10.5	－	14.0
建設業	▲ 11.1	▲ 6.6	－	18.0
卸売業	0.0	▲ 11.0	－	4.0
小売業	▲ 43.8	▲ 26.7	－	▲ 5.0
サービス業	6.1	▲ 15.4	－	▲ 7.0
全体	▲ 4.7	▲ 15.6	－	12.0

⑧業況前年同期比DI（「好転」と答えた割合－「悪化」と答えた割合）

	当所景況調査	中小企業基盤整備機構	日商LOBO	日銀短観(中小企業)
製造業	1.4	－	▲ 10.8	－
建設業	▲ 11.1	－	▲ 9.1	－
卸売業	▲ 4.2	－	▲ 17.6	－
小売業	▲ 28.1	－	▲ 29.4	－
サービス業	▲ 6.1	－	▲ 13.1	－
全体	▲ 7.6	－	▲ 15.8	－

⑨今後3ヶ月間の業況見通しDI（「好転」と答えた割合－「悪化」と答えた割合）

	当所景況調査	中小企業基盤整備機構	日商LOBO	日銀短観(中小企業)
製造業	12.9	▲ 4.5	▲ 7.4	11.0
建設業	11.1	▲ 4.5	▲ 10.5	11.0
卸売業	▲ 12.5	▲ 6.4	▲ 12.2	0.0
小売業	▲ 25.0	▲ 20.1	▲ 27.9	▲ 2.0
サービス業	▲ 4.1	▲ 10.7	▲ 15.4	▲ 8.0
全体	0.0	▲ 10.4	▲ 14.9	7.0



太田商工会議所管内景況調査報告書

～調査・分析・発行～

太田商工会議所

〒 373-8521

群馬県太田市浜町3-6

TEL 0276 (45) 2121

FAX 0276 (45) 1088

URL <http://www.otacci.or.jp>

Mail info@staff.otacci.or.jp

2018年(平成30年)10月5日 発行